

光合成促進 活力剤

サンバック

含有成分 単糖類・ビタミン類・
アミノ酸 17 種・核酸物質・NPK・
活性酢酸・エチルアルコール等。



- すべての作物の収穫は太陽エネルギー(日照)によって支配されます。過去のデータによると豊作年はすべて日照の多い年です。
- 近年異状気象による日照不足が問題になっておりますが、**サンバック**は日照不足を解消する為の活力剤(葉面散布)です。

サンバックとは……

- 本剤は葉面散布すると、速やかに細胞中に吸収され、光合成による同化養分量を増やします。
- 呼吸代謝におけるクエン酸回路をスムーズに回してATPを合成し、アミノ酸の生成や同化作用のエネルギーとして利用されます。
- 日照不足による軟弱ぎみの生育やN過剰を解消し、耐病性を高めます。
- 植物の体内成分を調整し(葉内C/N比の向上)同化養分の転流をよくし、開花・結実・肥大を促進し、着色・成熟が早まり(早期出荷出来る)、増糖・減酸・食味の向上が見られます。

荷姿 2ℓポリ缶(1ケース10本入)、20ℓパロンボックス

販売元 株式会社 ニチリウ永瀬

サンパック使用法 (基準) 250倍～500倍液を葉面散布する。 1回の散布液量 10アール当り100ℓ～250ℓ

蔬 菜	使用目的	苗の素質と活着をよくする	花を強くし、着果を良くする	耐病性強化	食味と品質向上	生殖生長への転換	根張りを良くする つる勢をつける
使 用 法		定植7日前から 2～3日おき2回	開花前2～3日 おき1～2回	生長期間5～6日 おき数回	果実肥大期～成熟期 5～6日おき数回	N過剰・軟弱徒長時 4～5日おき2～3回	600～800倍液を 土壌にかん水する

作 物	育苗期 生育初期	生育中期 以 後	葉面散布時期及び回数	作 物	葉面散布時期及び回数
と ま と な す	500倍以上	400倍以上	●定植前の苗に2回・開花前1回 ●収穫期間を通して6～7日おき数回 ●成りづかれした時(ベト病発生時)は 土壌にかん水する	柑 橘 類 (単用)(葉剤散布時) 250～400倍	●開花15日前から5～6日おき2回 ●開花後1回 ●果実肥大期～成熟期1ヶ月に3回散布する (早生温州の場合) 7月・8月・9月
ピーマン	500倍以上	400倍以上		梨 (桃・柿・リンゴ) 250～400倍	●新梢伸長期(徒長させない)4～5日おき2～3回 ●果実肥大期～成熟期7～10日おきに 1ヶ月に3回散布する
きゅうり	500倍以上	400倍以上			
す い か	500倍以上	400倍以上			
メ ロ ン	600倍以上	500倍以上	●定植前の苗に2～3回 ●開花前1回 ●果実卵大になった時、かん水する 1回 ●果実肥大期～成熟期 5～6日おき3～4回	ぶ ど う (巨峰・外) 300～400倍	●実どまり決定後～成熟期迄7日おき4～5回 ●収穫期～落葉前迄に2～3日おき2～3回(貯蔵養分蓄積)
かぼちゃ	500倍以上	400倍以上			
い ち ご	350倍以上	300倍以上	●定植20日前から5日おき4回 ●定植後 活着したら7日おき3回 ●果実肥大期 (葉剤散布時)5～6日おきに散布する	茶 樹 250～400倍	●一番茶芽の形成期(9～10月)3回 ●萌芽準備期(2/下～3/上旬)2～3回 ●一番茶摘採後 } (葉剤散布時)(400倍) ●二番茶摘採後 }
はくさい レ タ ス キャベツ	500倍以上	400倍以上	●生育中期(結球前)4～5日おき2～3回		
ばれいしょ だいこん にんじん	500倍以上	400倍以上	●N過剰の時(軟弱徒長時)3日おき2回 ●肥大生長期に入ったら4～5日おき2回		
ほうれん草	600倍以上	500倍以上	●生育中期(本葉4～5枚出た後)4～5日おき2回	花 木・庭 木 500倍	●植かえ時、根元にかん水する(600倍) ●対病性強化及び花芽分化促進に月2～3回
ね ぎ 類	600倍以上	500倍以上	●生育中期土壌にかん水する 2回	水 稻 300～400倍	●田植前の苗に2～3日おき2回 ●中干し時期1～2回 ●出穂後10～20日(2回)

(注意) ①サンパックは酸性の液剤です。アルカリ性の強い薬剤とは混用しないで下さい。 ②なるべく朝露のあがった時間にご使用下さい。

③自分の栽培する作物には各生育時期にどの程度の濃度が適するか勘どころをつかんでください。